

最近の佛國政治事情

松尾正路

三六年六月以來の所謂人民戰線なるものがフランスの財政經濟の危機を深め、文化の諸領域に於ても或る種の沈滞と疲勞をもたらしたことは、巴里の日常生活に於ける直接經驗として否み難い事實であつた。まことにフランス人民戰線の最初の一年は、これらの危機と政治的不安に加へ、スペイン戰爭の砲聲と獨逸の擡頭に怯えた暗澹たる一ケ年だつた。

プリユムに課せられた總括的な問題は、彼自身がその首頭である社會黨と急進社會黨及び共產黨の支持の下に如何なる程度まで彼の政治的社會的改造がフランスの舊ブルジョア社會機構の中で實現され得るか、といふ根本的な問題に懸つてゐた。然るに、プリユム内閣成立當時、フランスは、各種重要産業はもとより、水泳場の従業員に至るまで、一般勞働大衆の大罷業の渦中にあり、また既にラヴアルのデフレ政策の結果として、プ

リュムの社會經濟政策を困難ならしめる幾多の暗礁が待つてゐたのである。更に、人民戦線を支持するフランスの社會層と、これを代表する政治勢力の分配はそれぞれの利害と要求に於て將來の分裂を豫想させるものであり、フランスの社會全般が重苦しい空氣につつまれてゐた、そこには日本のある人達が信じてゐたやうな人民戦線の文化とも稱すべき文化的熱情や運動は見當らず、經濟不況に喘ぐ巴里市民の無氣力が目につくばかりだつた。

人民戦線と政黨

三六年五月四日總選舉の結果は下院議員六一八名中、急進社會黨 (Radicaux socialistes) 一一五名、社會黨 (Socialistes unifiés) 一四六名、共產黨 (Communists) 八二名、となり、多數黨の社會黨首領レオン・ブリュムがサロオ内閣の後を受けて首相となり所謂人民戦線内閣を組織した。この内閣は大臣數二十名の中、社會黨一名、急進社會黨九名、共產黨は黨書記長モリス・トレーズの名をもつて入閣を拒否、閣外にあつて新内閣を支持する方針をとつた。

上記の如く人民戦線を構成する政黨は急進社會黨と社會黨が、伯仲、共產黨は最下位にあるが、この數字の分配は必ずしも各政黨の思想傾向や政治勢力の表現となつてはゐない。左翼思想を中心として考へる場合、共產黨から最も遠距離にあるのは急進社會黨であつて社會黨ではない、即ち右に急進社會黨、左に共產黨を持つ社會黨は、その右端が急進社會黨の急進分子と左端が共產黨の右翼分子から成るフランス左翼政黨の中軸であつて、一九一二年、ジョレス、トーマ、ルノーデル等によつて組織されたものである。ジャン・ジョレス以來

人道主義的社會主義をもつて出發したこの社會黨が、その革命的な思想にも拘らず、第三インターナショナル共産黨の革命主義からは全く獨立したフランス社會主義を現してゐることは云ふまでもない、一九二〇年社會黨がモスコに代表者を送り、爾後コムインテルンの支配を受けるや否やの大問題に逢着した時、社會黨の大分裂が始り、現在の共産黨が生れたのである。經濟組織の改革を主眼とし、ジョレスの人道主義的立場にあつたブリュムはヴォルシェヴィスムを拒け、危機に瀕した社會黨内に止まつた。ブリュムが文藝欄を擔當した「ユーマニテ」はこの時以來共産黨の機關紙となり、社會黨の機關紙は「ポピュレール」に變つた。現在社會黨の地盤はフランスの北部、中部、リヨン等工業地區の組織化された労働大衆であるが、大工業を持たない南部地方、ロース、プロヴァンスに及び、この地方の急進的な農民小地主をも加へてゐる。

急進社會黨は所謂小市民的もしくは小ブルジョワ的社會主義といふ意味で最もフランス的な政黨である。社會的生活的には保守的な現實主義者でありながら思想的には左翼の味方として、時には社會黨の領域にまで進出したり共産黨と握手したりする程の左翼的習性を持つてゐる。然し多少なり大膽な社會制度の變革や改造が實際問題として登場する場合、つねに之に反對する人達である。社會黨とともに人民戰線の二大陣營を構成しながら、ブリュムの全權委任案が、殆ど急進社會黨から成る上院で否決されるのはこの爲めである。急進社會黨の地盤は農村都市、殊に地方小都市の大ブルジョワでもなくプロレタリアでもない人達である。

人民戰線の成立と大罷業

人民戰線政府の社會政策は當時の逼迫した社會情勢から甚大な影響と支配を受けた。三六年五月二六日、フ

ランスの金屬工業地區、サン・トゥアン、ルヴァロア、コルベイユ、ピランクール等に發生した罷業は次第に總罷業工場占據の形勢をとるに至つた。六月二日には巴里の金屬工場一九六が労働者の手に落ち化學工業、印刷、食料品工場にまで及んだ。ブリュム内閣が成立した六月四日、巴里地區の罷業金屬工場三〇〇、その他石油、製紙、織物工場、トラツク、一部のカフェ、レストランまで罷業に参加した。巴里赤色地帯では警官隊が非常警戒線を張り、地方では憲兵隊が治安維持に當つた。五日の新聞「ユーマニテ」はフランス全國の罷業者總數五十萬と計算してゐる。六日の朝は「ユーマニテ」「ポピュレール」を除き巴里新聞の休刊をみるに至つた、九日、十日、十一日に至るまで、リヨン、ボルドオ、ルアン、カレー、デイジョン等、フランスの重要都市に於ける工場、各種組合従業員は殆ど罷業に参加してしまつた。

この大罷業と工場占據は共產黨の地區、イスイ、サン・トゥアンに端を發してゐるのであるが、此處に人民戦線政府の政策として最も吾々の注意に價することは、この大罷業の渦中にあつてブリュムが共產黨及びC・G・T（労働總同盟）に入閣を慫慂したことである。共產黨は「大衆の閣員」として人民戦線の合法的政府を監視統率するといふ立前から、C・G・Tは一週四十時間制の即時實行等を要求しつゝ、いづれも正式に入閣を拒絶したが、この事實はその後のフランス労働者の心理に大影響を與へ、罷業の流行、生産力の低下、物價騰貴に加へ外交上の危機に直面した人民戦線政府が事實上の崩壊を餘儀なくするに至つた原因となつてゐる。

ブリュムは政權を握つた翌日、罷業中の労働者側の要求、團體契約權、有給休暇制、一週四十時間制の即時裁決を約束し、六月七日、ブリュム及び内務大臣サラングロの斡旋により、巴里地區を合せた金屬機械工業者側代表者（フランス産業聯盟）とC・G・Tの委員とがオテル・マチニオンに會談し、有名な「マチニオン協

調」が成立、殆ど労働者側の完全に近い勝利に終つた。C・G・T書記長レオン・ジュオーは全フランスに向ひ、労働者の新時代出現をラヂオによつて叫び、労働者の生活條件は昇給三割五分に等しく改善された、と云つてゐるが、「マチニヨン協調」では最低賃金一割五分までの昇給となつてゐる。

三七年の夏、僕は度々附近の市営室内プールへ泳ぎにでかけたが、此處の従業員も罷業の仲間だつたことを思ひ出し、脱衣室の樂書にも當時の爭議風景をしのばせるものがあつて面白かつた。ソヴィエツト派、右翼、共和派等、入り亂れたフランスの縮圖を示す觀を呈してゐたが、「全世界の……」と書いた側に「レオン・ジュオーは労働者の尻馬に乗つた偽善者である」といふのがあつた。僕はC・G・Tの書記長が偽善者であるかどうかは知らないが、フランス全國に五百萬のメンバーを持ち、あらゆる産業部門、中小パトロン階級にまで挑戦し、罷業の指導者、人民戦線政府の監視者となつてゐる「フランス労働總同盟」は、社會黨の場合と同様、ソヴィエツト革命以來コムニニストとの間に分裂を生じ、一九二一年リールの大會では截然と二派に別れた。その後、一九三四年二月、ファシスト勢力に對抗、合流の氣運を生じ、三六年三月、トゥールズの大會で正式に一團となり、七月の大罷業を指導したのである。

一週四十時間制

人民戦線政府の社會政策中、巴里の生活様式に最も直接的な影響を與へたものは何と云つても一週四十時間制である。四十時制は各種産業、營業者側に對して同時に施行されたのではなく、最初は三六年十一月一日、炭坑労働者に適用され、漸次他の産業部門に及んだのである。然し前述の如く、逼迫した社會狀勢から生れ、

至急實施を餘儀なくされた爲め、この四十時制も亦紛争原因となつた。

三七年三月三十一日の施行令に依り、巴里では多くの商店が四月三日（土曜）、四日（日曜）、五日（月曜）に休業した。即ち、一週四十時間を一日八時間労働として五日間に分配し、残りの二日、土曜日曜、若くは日曜月曜を休日（有給）とするのである。然るに四月二十日には巴里の各商業地域の店員達が街頭に進出し、「閉めろ！閉めろ！」と叫びながら四十時制の實施檢察と示威運動を始め、地方の都市では休日の午後閉店した商店に他の商店員の群が侵入、即時閉店を迫るなど、店主側の陣營は法律と使用人の氣勢の前に平伏するばかりであつた。この時の小賣商店に關する四十時間制は食料品店を除外したものであつたが、労働省は食料品店に關する施行令を五月三日までに公布することを發表してゐた。これに對し食料品店組合は、四十時制に伴ふ従業員増加、價格引上、營業の特種性、更に萬國博覽會の季節等を理由に反對し、従業員側は、四十時制が五月三日までに施行されない場合は罷業斷行の氣勢を示すに至つた。一方には巴里の劇場、シネマ、ミュージック、ホール等の従業員が罷業を始め、巴里市民を刺激したが、「ジュルナル」紙によれば、シネマ、ミュージック・ホールの部分的な閉塞を見たのみで、劇場はすべて興業を繼續した。

萬國博覽會は遅くも四月には開かれると聞いてゐたが、五月末になほ肋骨を青空に曝し、セメントの塵と用材の山の中に投げ出されてゐた。七月を過ぎ八月に至るも各種のイノグエラシオンが行はれ、完成されたのが何月何日であるか巴里人さへも知らない。勿論その間入場は許されてゐたが、結極赤字を生んで閉塞した。博覽會工事の大遅延の理由は、先づ博覽會の性質が失業救済を目的とした社會事業であり、對外的な意味よりも多く對内的事情に由來してゐたこと、従つて國家の名譽の下に奉仕的な勞力を労働者に要求することが不可能

であつた。このやうな大遅延を生じながら當事者の責任問題さへ起さぬフランス人にとつては、博覽會の如き事業も國家の名譽とは何の關係もないらしいのである。この心理的事情の裡にも遅延の有力な理由があると思ふ。然し、「マチニヨン協調」以來、勝利者の自覺を持つた労働者の怠業が主因となつてゐることは疑ひ得ない。更に遅延回復に要する勞力増加にともなふ莫大な勞銀負擔を考慮に入れるならば、遅々たる工事風景も亦極めて人民戦線的特色である。

この博覽會開期中、最も大きな波紋を投じたのは、ホテル、カフェ、レストラン營業者の罷業問題だつた。一般小賣營業者、食料品店、ガス及び電氣事業、理髮業者に續いて、一週四十時制が愈々ホテル、飲食店の番に廻つて來たのであるが、既に四月以來、この傾向を豫知した一部の營業者は四十時制施行の場合の罷業を宣告してゐた。(セーヌ、エ、オワーズのレストラン、ホテル業組合)その後次第に營業者の團結と反對の聲が高まり、プリニムは大體六月中に施行するつもりだつたらしいのが上院の反對によつて延期されてゐたものである。この騒動中にプリニム内閣が辭職し、ショータン内閣に變つた。六月二十六日の新聞はフランス全國三十萬の營業者が結束、四十時制施行の場合の一齊閉店を報じた。七月十四日の巴里祭もこの罷業騒ぎの中に行はれたのであるが、勞資爭議に馴れた巴里では外國の新聞が報ずるほど險惡な空氣が街頭に流れることはなく、僕自身も罷業問題など忘れてゐた。事實、營業者と従業員の對立によつて閉店した數は極めて少數であつて巴里全市中五十にも足りない程度だつた。結局、C・G・Tと營業者側の妥協點は、料理人及び地下室従業者は一週五日、他のカテゴリーに屬する従業者は一日十二時間以上の勤務を禁ず、といふ程度に落着いたのではないかと思ふ¹⁾。この爭議に續いてセーヌ河水路運搬人夫の罷業問題まで發生したが、一般に“Cinq huit”

1) Le Journal, 14-7-37.

(五・八)と呼んでゐる四十時制は、小賣營業者の場合(食料品を除く)、大體次のやうな規定になつてゐる。週休日を交代法によつて施行し、全週間を通じて店員を使用する商店に於ては、四十時間は六日間に分配され、店員は一日の週休日を持つ。店員に共同週休日を與へてゐる商店に於ては、四十時間は五日間に分配され、この共同週休日の他に更に一日の共同休日が與へられる。後者は通常、セーヌのデパートマンでは日曜に規定されてゐる。

このやうに、店員の使用法、營業の種類によつて週休日の異なる巴里では、自炊用の食料品を買ふ爲めにも、床屋で散髪するのにも、百貨店に出かけるのにも、それぞれの休日を覚えなければならぬ。更に正午より二時までは休業時間となつてゐるため、不精者がメトロに乗つて買物に外出する時は殆ど一日を費すやうなことがある。夕方街を歩くと、「この店は月曜日に開いてをります」と大きな字で注意書してゐる商店もある。

従業時間短縮によつて得た餘暇を勤勞者勞働大衆が如何に消費してゐるか、といふ問題は、「マチニヨン協調」以來の賃金値上に關聯して興味ある問題であるが、この事實を正確に補へることは困難であり、社會生活の外面に現れた一般的現象によつて判斷するより仕方がない。保健省は勞働者の爲めの遊戯娛樂場を増設、各種組合團體の運動大會等も行はれてゐたが、アメリカ人やその他の民族に見るやうな素朴さを持たず、團體訓練や原始的行動に喜びを求めないフランス人は、組織的な體育文化の運動を試みようとはしない。植民地の英國人が先づホツケやラグビーのチームを組織する時、我家の菜園で鋏を持ち、個人生活を樂しむのがフランス人であり、農民の趣味とアンデイヴィデュアリスムが深い性格を形成してゐる。セーヌ河の魚釣風景は巴里情景の一つとなつてゐるが、人民戦線下のセーヌ河岸はまた格別である。魚釣の大群衆は市内公園の池からヴェ

ルサイエ宮庭の池にまで及び、ジュール・ローマンは遂に「魚釣だけでは困る」といふ題目をかゝげ、巴里民衆の文化的熱情の缺如を慨歎した。²⁾

一週四十時間制の結果

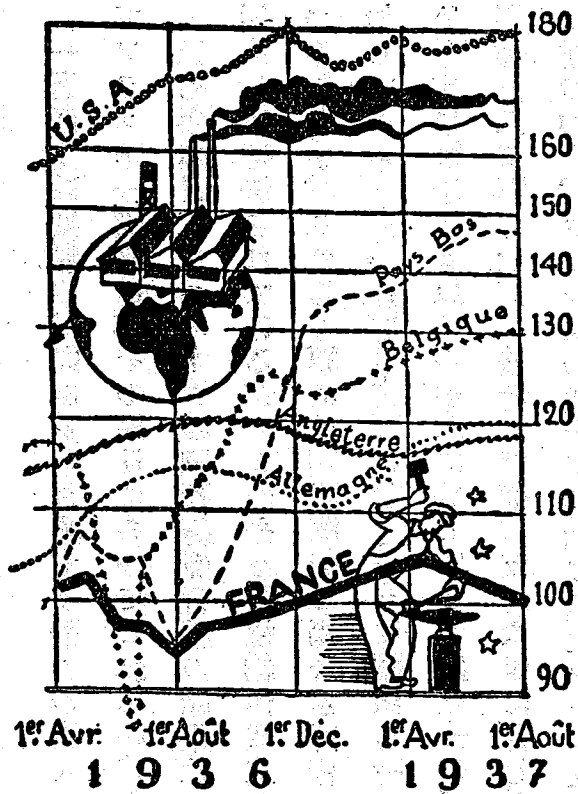
一週四十時間制の街頭風景から感ずる吾々の素人考へは、各國が生産力の擴充に邁進してゐる時、如何にしてフランス一國だけがその埒外にあつてこれらの諸勢力と對抗し得るか、といふ疑問であつた。

三七年六月、ジュネーヴの國際労働會議の結果は、繊維工業に對する労働時間の短縮一週四十時間制が四一対八三で可決されてゐるが、このやうな協約が成立したにしても、關係諸國がそれを履行するとは限らない。のみならず、これらの票數は國際聯盟の場合と同様、決議事項に對し直接利害關係を持たない多數の國家が參加してゐる上に、繊維工業に最も重大な關係を持つ英國、日本、印度、スイス、オランダが反對投票してゐる。更に繊維工業以外の部門に於ては必要數三分の二を缺き、化學、印刷工業の場合は前者が棄權數四五、反對數四二に對し七五、後者が棄權、反對八四に對し七二となつてゐる。¹⁾

斯の如く、フランスの四十時間制は遂にフランスの四十時間制に止まり、フランスの生産力、特に工業生産力は、獨、英、米、オランダ、アメリカに比して最下位にあり、國辱的生產指數を示してゐる。一九一四年七月基數一〇〇として、三七年八月の獨、一二〇、英、一一八、ベルギー、一三〇に對しフランスは三六年四月以來最高一〇五(三七年五月)を示してゐるに過ぎず、三七年十月には完全に一〇〇へ落ちてゐる。²⁾七月二日の「ラントラン紙」に依れば、フランスの石炭生産は、三六年五月より三七年五月までに一一パーセントの

2) Marianne, 1-9-37.
1) Journal des Debats,
2) Journal, 2-11-37.

減少を示し、獨逸では一四もしくは一五パーセントの上昇を見せてゐる。五月一ヶ月の一日平均石炭生産は一七二、〇〇〇噸であり、四月の一七五、〇〇〇噸に比して四、〇〇〇噸の減少を示し、前年度の五月に比して六、五〇〇噸減である。



勿論この現象は大罷業當時からのもので、單に四十時間制の結果ではない。然し、フランスの生産力が四十時間制の修正なしには、それ以上の増大が不可能とされるまで行詰つてゐることは事實である。三十七年十二月十七日「ル・タン」に發表された産業調査委員會の報告は國家經濟に直接影響を持つ重要産業の或る部門は既に、現存の労働組織下に於ては、生産の最大限度に達し、電力その他一般機械工業に於ても同様の結果にあることを示し、これら生産工業に對する四十時間制の修正を要求してゐる。殊に國防戰時産業に於ける勞力の補給は緊急を要する状態にあり、労働者側代表調査委員もこの點修正法規の濫用なきことを條件とし

て承認してゐる。なほ、季節産業に於ける労働時間補給一ヶ年一〇〇時間の割當決定時期、相互に密接な關聯を持つ商工業、食料品の生産及び取引販賣關係、海運業とこれに關聯した商工業の間に於ける労働法適用の調和等、多くの修正が要求されてゐる。斯の如く、三六年の大罷業とC・G・Tの要求から急速な實現を餘儀なくされ

た「マチニヨン協調」の結果は、國內生産消費關係に止らず、對外貿易關係に於ても多くに支障を來してゐる。勿論、労働時間の短縮は、他の失業救済事業と並んで失業者數の減少を見せてゐるが、この結果も亦必ずしも樂觀的な徴候のみを示してはゐない。

三七年十一月公表統計に依れば、同月失業者數は三〇六、〇〇〇人、前年度四〇八、〇〇〇に比して二〇二、〇〇〇もしくは一〇三、〇〇〇人の減少となつてゐる。然し部分的な失業數の増加、殊に工業生産部門にこの傾向が著しい。二月の二七、〇〇〇から四月の三三、〇〇〇となり五月は五八、〇〇〇、九月には七〇、〇〇〇に達してゐる。更に、四十時間制による就業率は二〇パーセントの期待に反し、事實は五パーセントに過ぎなかつた。

賃金と物價騰貴

「マチニヨン協調」の結果、フランスの労働大衆は歴史的な生活條件の獲得を見たかの如き印象を與へるが、事實、彼等の生活内容はその後の物價騰貴によつて殆ど得たところの大半を失つた状態にある。

「マチニヨン」協調では平均昇給率一割二分となつてゐるが、事實は一割五分乃至三割にまで達し、平均二割乃至二割五分の増給とみることが出来る。更に同年十月以來は四十時間制の施行、物價騰貴の結果、當時の給料の二割増給を實現してゐる。即ち、三六年六月より三七年六月までの一ケ年、一時間平均給料の増給率は四割より五割以上に達し、三七年六月一日、ルーベニー、トールコアンの織維工賃金は五割八分の増給率に達してゐる。巴里地區金屬工の一時間平均賃金は、三七年三月までの一ケ年間、修繕(機械)工が六・三八フラン

より一〇・一七フランに達し、普通男工のそれは四・〇九フランより七・二〇フランに達してゐる。

巴里滞在當時屢々、日本の労働者が一フランで飯を食ふことの眞偽を質問されたが、フランスの労働者にとつては驚異的な問題であつたに違ひない。一フランは彼等が食事前に立飲みするアペリチフの代にも當らず、彼等の晝食のチップ代である。

然し、このやうな増給にも拘らず、物價及び生活費の暴騰は更に労働者官吏の賃金俸給引上の要求となり、昨年十月からは再び争議時代に入つてしまつたのである。フランスの物價騰貴は人民戦線政府の財政、社會政策、特に労働時間短縮と賃金値上に伴ふ生産費の昇騰、デヴアリュアション、生産力減退、等を擧げ得るが、物價騰貴は單に特種生産關係、輸入品に止らず、一般物價、食料品、砂糖、肉類、野菜にまで及んでゐる。三七年度卸物價指數は前年度四九六に比して五九六（一九一四年基數一〇〇、種目四五）、國內生産物に就いては五二二對六四一、輸入品四四八對五一四となつてゐる。即ち、輸入品の一割三分高に比し國産品が二割三分高となつてゐる。此處に人民戦線政府の社會政策の反影があると見るのは至當であらうと思ふ。小賣物價指數は五五〇より六六四となつてゐる。即ち前年度に比して卸物價は二割、小賣物價は二割一分騰貴してゐるが、これは大罷業前年度三五年の物價指數と比較するならば、卸物價七割二分、小賣物價五割一分高となつてゐる。これに對し巴里の労働者四人家族の生活費指數は三六年度の五四〇より六三〇に上つてゐる。即ち生活費一割七分高となる。¹⁾これをフランス全體として見る場合、十月三十一日の「エクセルシオール」に依れば、三五年十一月に比して三割三分もしくは三割五分高となつてゐる。

斯の如く、三六年五月の大罷業前後、三十五年より三七年までの物價及び生計指數の上昇線を辿るならば、

1) Le Temps, 27-12-37, Frédéric Jenny.

労働者の増給は殆ど棒引となつてゐる。然し最も憐むべきは中産階級である。彼等の定収入が依然としてゐるのに生活費は既に昨年七月當時、平均二割高となつてゐる。小利子生活者の場合も同様であるが、彼等の所有する有價證券は四割近くの下落を示してゐる。所謂自由職業者、新聞記者、辯護士、醫者等はおよそ人民戦線の恩恵から遠い人達であつて、巴里の有力新聞の大半が反人民戦線派である理由も、單にイデオロギーだけの問題ではない。

人民戦線と共産黨

このやうに、フランスの人民戦線は外交、財政の危機に加へて物價騰貴と労働争議の齒車を廻轉して來たのであるが、労働争議を中心として見る時、特に三七年末期に於て著しく現れて來た特徴は、團體契約権期限終了に關する勞資の對立と人民戦線政府のスペイン内亂不干渉主義に對する労働者側の不滿である。賃金値上の要求箇條とともにスペイン政府軍を援助せよ、といふ政治上の要求が加へられてゐることは、争議指導者の所在と意圖を明瞭に示すものであつて、それが共産黨員であることは云ふまでもない。從來のセクト主義を放棄してゐるが、それは戰術的な手段として廻り道をしてゐるに過ぎない。目指す場所は同じ地點に在る。一九三六年一月、ヴァイル・ルバーヌ大會當時、八六、九〇二に過ぎなかつた共産黨員は、今日、三四一、〇〇〇の増加を示してゐる。細胞數は、四、三二一より二一、九九二となり、その中、四、〇四一が工場企業關係であり、巴里地區のそれは二〇三より八九〇に達してゐる。三七年十二月二十九日(巴里市交通機關の大罷業當日)、アル・シユル、ローヌの第九回大會では、農民の共産化と上院の改革が叫ばれてゐるが、彼等の目標と人民戦線

内に於ける役割は「我々は……に於けるが如く完全に資本主義機構を破壊してはゐない。せいぜい人民戦線を形成したに過ぎぬ」といふ指導者の演説によつて明白である。

三七年の争議中、本年三月の第二次ショータン内閣没落と關聯して興味があるのは十二月二十九、三十、三十一日に渡る巴里市營交通機關、バス、地下鐵の罷業である、この罷業はガス、暖房にまで及ぶ筈であつたが實際に罷業が行はれたのは交通機關に止り、それも三十日の一日を経て翌朝からは運轉を始めた。争議の表面に現れた點から判斷すれば例によつて物價騰貴に伴ふ賃金値上の問題に限られてゐる。巴里市會は従業員に對し三七年度給料割増を三回に分ち、官吏と同率の増給を決議し、十二月三十一日までは總額二、四〇〇法の増給を實行、これ以上の増給は官吏との均衡上、且つ政府の命令によつて不可能である、と發表してゐるが、従業員側では、一ヶ月五〇法の増給に過ぎず、これは官吏の場合の半額であると稱し、年額一二、八〇〇法の給料を要求してゐる。この争議で注目すべき點は、およそ社會奉仕的性質を持つ交通機關や病院施設にまで及ぶ機關の罷業は、一般市民大衆の反感を買ふ結果、それを無視する罷業の動機は極めて重大な性質を持つものでなければならぬ、然るにこの罷業は事實上増給實施中の出來事であり、然も全く突然に行はれ、従業員約七割が争議指導者によつて強制的に就業を禁止されてゐる。更にこの罷業は官吏の増俸問題と關聯して従業員と政府との對立關係を持ち、首相ショータンは罷業を停止せざる限りC・G・Tの如何なる代表者とも會談することを拒絶し、争議團に對する強行な態度を示した。この事實は人民戦線政府と共產黨の分裂を暗示するものであり、人民戦線誕生以來それが最も明白に現れた點で注意に價する。然し、共產黨の社會變革の方針と人民戦線政府の社會政策との纏れは既にブリュムムの財政全權委任案が三七年六月十七日、下院に提出された

時に始つてゐる。

人民戦線内閣成立より崩壊への経過

ブリュムの金融財政全權委任法案は既に十五日、下院財政委員会に於て賛否同数の對立を示し、委員長の賛成投票によつて辛くも下院提出の運びに至つたもので、結局下院では二四七票對三四六票で通過した。賛成投票中には共産黨が參加してゐるが、若し共産黨の反對があつた場合、ブリュム内閣の運命はこの時に決定したのであつて、然も共産黨はブリュムの間接課税に反對し、投票直前まで、全權委任案に對する棄權を決定してゐたのである。この棄權の理由は、郵税引上、タバコ値上によつて大衆の生活を脅かすといふことの他に、ブリュムのスペイン不干渉主義、特にビルバオの陥落が迫つてゐた事情から共産黨の不滿を想像することが出来る、然し更に不思議な事實は、投票に際し突如態度を變更したことである、この當時フランスの財政は極度に逼迫し、五百億法に達する資金の流出、三百億の赤字、公債利金の低下、爲替均衡資金の缺乏、フランス銀行よりの借入困難等により窮地に陥つた結果、大衆課税の如き、人民戦線政策に反する増税まで含めた全權委任案が生れたのである。然してこのやうな傾向はやがて遂に人民戦線政府の根本政策をも犠牲にするまで進行しなければならなかつた。辛じて下院を通過したブリュムの全權案は二十一日、上院で否決され、人民戦線成立以來一ヶ年、ブリュム内閣は總辭職した。

後繼内閣は急進社會黨ショータンの手に落ちたが、政策はブリュムの金融財政政策の上に立つものであつて、この當時のショータンは未だブリュム以來の人民戦線的社會政策を踏襲してゐた、閣員數も二二大臣、次

官合計三五名中、急進一七名、社會一四名である、但し藏相は社會黨のオリオールが急進のボネに代つてゐる。シヨータンの全權案がむしろブリュムのそれ以來廣汎な範圍に渡つてゐるに拘らず、下院の信任投票に成功したことはフランスの議會政治がつねに例を示してゐる藏相の更迭が一つの心理的役割を演じてゐるのではないかと思ふ。この場合、日本に就いて云ふならば、馬場財政が結城財政に變つたことに相當するだらう。シヨータン内閣が掲げた綱領は、フラン貨の安定、フランス銀行より新規借入、増税による赤字填補、投機、脱税の防止、等であり、増税による新財源は百億以上に達し、その中、共產黨を宙に迷はせた大衆課税、郵税、タバコ、鐵道運賃の値上も含まれてゐる。タバコが二割高、市内郵便葉書が六五サンチームとなり、故郷に出す郵便が一法七五サンチーム、地下鐵が一法になつて驚いたのもこの時である。シヨータンの財政案中、爲替管理は行はない、といふ條件を發見したが、本年一月第一次シヨータン内閣總辭職の原因は既に此處にあつた。内閣の更迭とは無關係に勞資の對立は「マチニョン協調」以來の團體契約權滿期と、もに益を鋭く、巴里市交通罷業の直前には運送労働者の罷業があり、停車場より市場への食料運搬も軍隊の手を借りなければならなかつた。その他金屬工の罷業、工場占據等依然として行はれ、社會不安、資本の逃避等、フランスの人民戦線はその内部的分裂と國家の危機を深めるばかりであつた。労働爭議に對する急進社會黨の強硬策と爲替管理案を繞る社會黨、共產黨の人民戦線政策とは遂に一月十四日、シヨータン内閣の總辭職となつて現れた。

後繼内閣は第一黨の社會黨によつて再びブリュム内閣を見るかと思つたが、既に急進社會黨對社會、共產の對立は明瞭となり、ブリュムの共產黨との提携による人民戦線組織は急進社會黨の反對となり、遂に再び第二次シヨータン内閣となつて現れたのである。この第二次シヨータン内閣は二名を除き悉く急進社會黨員であ

り、社會、共產黨は全く除外されてしまつた。所謂人民戦線内閣なるものは崩壊し、フランスの社會はこの時を機とし、漸次右傾し始めた。三月三日には遂に新労働法案の通過となり、この時は社會黨も共產黨と離れ、右翼側に來てゐる。然し、ファシスト國家、特に獨逸に對する國防の強化は、益々人民戦線的社會政策の放棄を餘儀なくされ、四十時間制も四十五時間制に決定したのであるが、遂に社會黨と共產黨との提携により、労働者の騒然たる興奮と示威運動の中に、再びショータン内閣の辭職となつた。

再度のプリユム内閣はその財政全權案が上院で否決された爲め一ヶ月足らずして辭職したが、労働者の上院に對する不満は遂に爆發し、上院の包圍、警官隊の出勤、軍需工場の罷業を見るに至り、この騒然たる社會不安と獨逸合併の脅威の中に、現在のダラディエ内閣となり、社會黨、共產黨を除き、急進黨及び少數の中央諸派を加へた所謂フランス國防政府の前進となつたのであるが、果して今後のフランスが勞資の對立を緩和しつつ、國防國策の遂行に邁進して行くか否か、そこから生ずる更に新なる社會不安に對して懸念なきや否や。